

モンドリアンの絵

酒井恵三

私は彼の絵に音楽を感じ
そして半導体の無機質を思う
そこに幾何学の定理を思う
私は彼の絵の行間に
ニューヨークの雑踏を感じる
信号が変わる度
行き交う車、行き交う人々
林立する摩天楼
ニューヨークは繁栄を謳歌している
やがて日は落ち
夜景がこの町を彩る
都市の明かり
ビルの窓の一つ一つが
万華鏡のように
スパンコールのように輝く
彼の絵からは
ジャズの響きが聞こえる
そして夜は更けて行く――

明かりの一つ一つが魂を

持っているかのように輝いている

モンドリアンの絵の持つ

明晰な色彩

それは昼をも夜をも

見事に体现している